

「新しい時代の到来」

2021年11月03日

誰も、真新しい布から布切れを取って、古い服に縫い付けたりはしない。そんなことをすれば、新しい継ぎ切れが古い服を引き裂き、破れはもっとひどくなる。また、誰も、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋も駄目になる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。(マルコ福音書2章21節～22節)

洗礼者ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは、宗教の慣わしに従って、断食をしていた。断食は、神の前に敬虔であることの徴であった。自らの罪を直視し、その罪を歎き、赦しを乞う。また、断食は食べられない人の苦悩を受け止め、施しの思いを高める。信仰者にとって、断食は欠かせない苦行で、週に二回、行っていた。ヨハネはエルサレム神殿を捨て、荒野野に立って、神への信仰を厳しく勧めた人で、律法を厳格に守っていた。ヨハネを師と仰ぐ弟子たちは当然、断食に熱心であった。ファリサイ派の人々は律法遵守を何よりの戒めとしていたので、断食を欠かすことはなかった。しかし、彼らの断食は人からの敬意を得るため、信仰深そうに見せる偽善であると、主イエスは指摘している。

一方、主イエスの宣教団は断食をせず、「神の国」を明るく、楽しげに宣教していた。彼らは、苦しむ者たちを生かす神の恵みの現実を見聞きし、嬉しくてたまらないという喜びに満たされていた。そこで、人々は主イエスの所に来て、「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食するのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか」と問うた。主イエスは、「花婿と一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿と一緒にいる間は、断食できない。しかし、花婿が取り去られる日が来る。その日には、彼らは断食することになる」と答えられた。当時の婚礼は、花婿は友人たちと一緒に花嫁を迎えに行き、七日間の祝宴を催す。主イエスは、私は花婿であり、友人たちと共に喜びの祝宴を催している。その最中、断食などしない。しかし、花婿が取り去られる十字架の日が来る。その日には、友人たち(弟子たち)は、断食をして、罪を悲しむ事態が来る。今は、神の子イエスの到来によって、婚礼の祝宴のような、人々に神の恵みが告げられる喜びの時であるから、断食をしないとされた訳である。これは、新しい時代の到来を明言された言葉である。その新しい時代を迎える譬えを二つの例から述べている。

一つは、「誰も、真新しい布から布切れを取って、古い服に縫い付けたりはしない。そんなことをすれば、新しい継ぎ切れが古い服を引き裂き、破れはもっとひどくなる」のである。服の破れを接ぎする場合、古い服に新しい布切れを当てると、強度の高い新しい布切れは、古い服を引き裂いてしまう。古い服には、古い布地で接ぎ当てするのである。

二つは、「誰も、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋も駄目になる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ」である。伸び切った古い革袋に新しいぶどう酒を入れると、新しいぶどう酒は発酵して膨張する。そのため、古い革袋は破れてしまう。新しいぶどう酒は、膨張に耐える新しい革袋に入れる。これらの譬えは、皆がよく知っていたことであった。

主イエスは、ご自分が来たことによって、新しい時代がきた。律法に縛られる状態から、神の「あなたらしく生きよ」という解放を与える時代の到来を告げたのである。それは、疎外されていた者が神の名において人間に復帰する喜びの時代である。